

オバマ大統領によるアメリカの医療改革案

アメリカ医師会 (AMA) 年次総会での演説

2009年6月15日、アメリカのオバマ大統領は、シカゴで開催中のアメリカ医師会 (AMA) 年次総会に出席して、50分間にわたりアメリカの医療改革について演説しました。そして、大統領の演説内容に対して、会場からは AMA 会員による満場の賛意が表明されました。以下は、演説の骨子です。

1. 米国の医療改革をアメリカの国家政策のための最重要課題のひとつとして実行してゆくにあたり、AMA の医師の協力が不可欠です。
2. アメリカの医療が行き詰まった大きな要因のひとつとして、ビジネス導入による医療費の高騰がありました。
3. 現在の米国の経済不況を招いた原因のひとつが GM の経営不振などに見られる医療費企業負担の増大であり、今後はIT技術の医療分野への活用や予防医学の推進を強化するなどして、負担を抑制する必要があります。
4. 現状で満足しうるものを残しながら、今後は、4600万人という無保険者に対しては選択肢のある公的保険の提供によりこれを救済します。これにより、医療機関の収入は増大し、税金投入が減少する効果も期待できます。
5. 医療改革の推進により経済によい影響が与えられれば、それが将来、米国の経済の活性化につながり、さらに医療の向上へと波及するでしょう。

出典：AMA ホームページ

<http://www.ama-assn.org/ama/pub/about-ama/our-people/house-delegates/2009-annual-meeting/speeches/president-obama-speech.shtml>

オバマ大統領がアメリカ医師会年次総会において医師たちに語る（演説全文訳）

日本医師会国際課翻訳

2009年6月15日

2009年アメリカ医師会年次総会

ハイアットリージェンシー・ホテル

イリノイ州シカゴ

大統領就任以来、わが国が直面する最重要課題として、戦後最悪の不況から抜け出すことに取り組んできました。この数ヶ月間は、国家経済への直接的ダメージを修復するだけでなく、持続的成長への新たな基礎を築くために、異例の措置を実施してまいりました。新たな雇用を創出し、金融市場の凍結を解除し、家の差し押さえとその価格低下を食い止めつつあります。

前進したとは言え、繁栄への道のりがまだ遠く困難なものであることはわかっています。悪循環に陥ったアメリカの医療費抑制がひとつの重要な一歩であることも承知しています。

今日、わが国の医療費は年間2兆ドルを超えています。一人当たりの医療費は、2番目に高い国よりもさらに50%高い金額です。これだけの金額を費やしているにもかかわらず、無保険者の数は増えているし、医療の質が低いことも多く、そして何よりも、我々がもっと健康的になっている訳ではありません。事実、これほど医療費を費やしていない国々の国民のほうが、我々よりも長生きしているのです。

確かなことは、わが国の医療費は経済に対する脅威であり、家族と企業への負担はますます増大しているということです。連邦予算にとっては時限爆弾のようなものです。もはやアメリカ合衆国が維持できないものになっています。

それは国民にとっても持続不能なのです。私が先週ウィスコンシン州で会った若い母親、ローラ・クリツカは、根治したと思っていた乳ガンが骨に転移していることを知りました。彼女は2人の子供たちと一緒に過ごす時間を望み、病気の回復に集中したいと願っているのに、5万ドルに積み上がった医療費の返済を心配しながら時を過ごさざるを得なくなっているのです。我々のように豊かな国で、ローラのような女性がこんなことを心配すべきではないはずで

ローラのような話は、全国にわたって男女を問わず語られています。自己負担費が急上昇し、この10年では、賃金上昇の3倍の率で保険料が倍増しています。あらゆる年齢層のアメリカ国民が、必要な検診や処方を受けられなくなっています。ひとつ病気をすれば一生分の貯金がなくなってしまうような状況が生まれているのです。

わが国の経費のかかる医療制度は、医師たちにとっても持続不能なものです。ニューハンプシャー州のマイケル・カーン医師は、スタッフが患者に保険について説明するのを指導したり、承認用の書類を作成したり、嘆願書を書いたりといった業務に、毎日の勤務時間の20%を費やしてい

ます。このような雑務に追われて、患者を治療するために医師になったはずなのに、実際にはその本来の仕事をする時間が取られてしまっているのです。

ナッシュビルのクリスとベッキー・リンク夫妻のような中小企業の経営者たちも苦労しています。彼らが家族経営する市場調査会社では、従業員に対してきちんとした扱いをすることを常に心がけてきましたが、最近になって、従業員を何人も解雇するという思いもよらないことをしなければなりません。医療費がそんなに高くなければ、このような一時解雇は先延ばしできたかもしれないと言います。全国の中小企業の3分の1以上がここ何年かで手当を減らし、同じく3分の1は90年代初頭以来、保険料の雇用者負担を完全に切り下げてしまっています。

巨大企業も同様に被害を受けています。GM やクライスラーでここ数十年経営が落ち込んだ大きな要因は、従業員の医療保険に莫大な経費がかかったことでした。この経費によって利益が減少し、世界の自動車メーカーに対する競争力を失ったのです。わが国の医療制度を改革しなければ、アメリカはいずれ、支払いは増大し得るものは減少、そして破産に至るといふ、GM と同じ道をたどることになるかもしれません。

医療費に関して言えば、このような状況は持続不可能です。改革は贅品ではなく必需品なのです。改革には金がかかるという議論がさんざん行われてきたことも、実際にお金がかかるということも承知しています。これは、民主党であろうと共和党であろうと、新たな支出を食い止め、財政規律を修復することに我々がどれだけ真剣であるかを試す試練です。

しかし疑いもなく、行動しないことのコストはもっと大きいのです。いま行動しなければ、保険料はますます上がり、給付は一層削られ、さらに何百万人ものアメリカ国民が無保険者になってしまうでしょう。

いま行動しなければ、10年以内には、我々が稼ぐ5ドルのうち1ドルは医療に使われることになるでしょう。30年後には3ドルのうちの約1ドルになるでしょう。このような流れは、失業、手取り収入の減少、企業の倒産、すべてのアメリカ国民の生活水準の低下を意味します。

そして、いま行動しなければ、連邦がメディケイド（低所得者向けの医療費補助制度）とメディケア（高齢者向け医療保険制度）に支出する金額は、この先何十年間も増え続け、現在の国防費にほぼ等しくなるでしょう。実際、最終的には今日の政府のどの支出よりも高くなっていくでしょう。医療費が連邦および州予算を圧倒し、我々は、先例のないほどの増税か、巨額の赤字か、もしくは連邦及び州予算の大幅削減かという厳しい選択を迫られるようなことになるでしょう。

できるだけ率直に申し上げれば、医療制度改革は、アメリカの長期財政を健全化するために我々が成し得る、唯一かつ最も重要なことです。これは現実です。

そして明らかに、現在の制度は改革を必要としており、改革は避けられません。中には理屈をつ

けて、現在の制度はたしかに悪いが、「見知らぬ悪魔より知り合いの悪魔の方がまし（知らぬ神より馴染みの鬼）」ではないか、と言う人もいます。変化に対する恐れもあります。それは、医療制度の不具合を直そうとしている間に、上手く行っている部分が失われてしまうのではないかとという懸念です。

その恐怖は理解できます。その不信感は理解できます。それは過去の改革努力が残した傷あとなのです。歴代の大統領は、1世紀近くにわたって、みな医療制度改革を求めてきました。ルーズベルトも、トルーマンも、ニクソンも、カーターも、クリントンも、医療制度改革を提唱し続けてきました。しかし、メディケアやメディケイド、子ども向けの医療保険など、重要な個々の改革は行われたものの、すべての人を保障し、かつ医療費を削減する総合的な改革の努力は、大部分失敗に終わってしまいました。

その理由の一部は、医師、保険会社、企業、労働者など様々な関連団体が、改革の必要性や改革のあるべき姿について、どうしても意見が一致しなかったことです。もう一方には、いくつかの利益団体やロビイストたちに煽られた、猛烈な反対もありました。反対派は、改革達成への努力をことごとく医療の社会主義化の企てと色づけて、不安を煽る戦術を使いました。

この長い失敗の歴史にもかかわらず、私が今日ここに立っている理由は、時代は変わったと考えるからです。つい先週上院で、子供たちを喫煙の危険から守るための法案が可決されたことは、変化の一つの兆しです。この法案は、AMA が長年戦ってきたにもかかわらず、10年前に提案されてからずっと行き場を失っていました。以前と違うのは、主要な利害関係者たちが、今回初めて、改革に反対ではなく賛成の立場で足並みをそろえたことです。彼らは、改革には医療界の全員がそれぞれの役割を果たすことが必要であるが、最終的には全員がその恩恵を受けるということに気付いて、団結しつつあります。

そして私は、AMA がコストを抑えて改革を達成するために自らの役割を果たすと申し出てくださったことを特に賞賛したいと思います。2-3週間前、AMA は、つい2-3年前には考えられなかったようなあることをするために、病院、労働組合、保険会社、医療機器メーカー、製薬会社と集まりました。この先確実に訪れると予測される事態を避けるために、国の医療費支出を10年間で2兆ドル削減することに一致団結して取り組むことを約束したのです。この取り組みは、コスト削減と保険料の引き下げにつながるでしょう。これこそまさしく我々が必要としている協力体制です。

問題は、どうやってこの仕事を成し遂げるかです。コストを恒久的に引き下げ、すべてのアメリカ国民が手頃な価格で利用できる質の高い医療を実現するには、どうすればよいのでしょうか？

本日ここに来たのは、それについてお話しするためです。我々は、今こそ医療制度改革を行うべき時期であることを知っています。それが、かつてなく、今後も2度と訪れることのない歴史的機会であることを知っています。しかし、過去に上手くいったのと同じような、不安を煽る戦術

を使って、どうにかしてこの機会を台無しにしようとする人たちがいることも承知しています。彼らは、長時間の診療待ちと制限医療、医師ではなく官僚による意思決定など、医療の社会主義化と政府支配についての恐ろしい警告を示してくることでしょう。それらはすべて過去に聞いてきたことです。それに、この不安戦術が成功していたからこそ、状況は悪化の一途をたどったのではないのでしょうか。

まずこのことを言わせてください。私は、現在の医療保険に満足しているアメリカ国民が何百万人もいるということを知っています。彼らは今の医療プランを気に入っていて、医師との関係性を評価しています。つまり、どのような医療改革を行ったとしても、このことだけは約束します。あなたがかかりつけ医を気に入っているのなら、そのまま同じ医者に診てもらうことができます。あなたが今の医療プランを気に入っているのなら、同じプランを継続することができます。何があろうと、誰もそれを奪うようなことはしません。私の考えでは、医療制度改革は、こわれた部分は直し、うまく行っている部分の上に築くという、シンプルな原則に導かれて行われるべきものです。

そうすれば、皆さんが管理者でも会計士でもなく、医師としての仕事ができるような医療制度を構築できるでしょう。それは、アメリカ国民に最低のコストで最高の医療を提供できる制度です。何十万もの雇用を生み、手取り報酬を何千ドルも高くし、毎年何百億ドルの経済成長を可能にして、企業負担は和らぎ、経済回復が期待できるような制度です。これが、持続可能性のない制度をてこ入れするために税金を投入するのをやめ、その分を我々の医療制度と経済をもっと強くするための革新と進歩のために投入する方法です。

これが我々にできることです。これこそ、いま我々がやらなければならないことなのです。

さて、良いニュースは、いくつかの問題において、我々の医療制度がもっとうまく機能するのに必要なステップについて、すでに広く合意に至っているものがあります。

第1に、診療録を紙媒体から電子システムにアップグレードする必要があります。これについては「再生法」による施策の一環として、すでに資金投入を開始しています。

21世紀を生きる患者が、いまだに紙とペンで診察用紙に記入し、それがどこかに保管されなければならないというのは筋が通らないことです。ニュート・ギングリッチ氏が的確に指摘したように、この国では患者の診療録を見つけるよりも、フェデックスの小包を追跡するほうが簡単なのです。受診医が変わるたびに、病歴や処方歴を説明する必要はないはずで、コストのかかる検査を再び受ける必要もないはずで、このような情報はすべて、たとえ仕事が変わっても、引越しをしても、また多くの専門家の診察を受ける場合でも、医師から医師へと記録が引き継がれるように、個人の医療記録として安全に保管されているべきです。

これは、紙の使用を減らし、管理費を下げ、何10億ドルもの節税になるだけではありません。医

師の仕事もやりやすくなります。皆さん方医師は、患者がどのような薬を服用しているかがわかるので、有害な相互作用を引き起こすような処方避けることができます。薬の量が誤って処方される危険も回避できます。また、毎年病院で10万人もの死亡者を出している医療過失も減るでしょう。

我々すべてが合意できる第2のステップは、まず初期において疾病を防止するように、予防医療にもっと資金を投入するということです。これは、我々一人ひとりが自分や子供たちの健康に責任を持つことから始まります。それは禁煙とか、マンモグラフィー検査や結腸ガン検査を受けるということです。ジョギングをすることやジムに通うこと、子供をテレビゲームから遠ざけてもっと外で遊ばせることを意味します。

また、多くのアメリカ国民を、老若を問わず、費用のかかる慢性病のリスクにさらしている肥満、この原因となっているジャンクフードのすべてを減少させることも意味します。私と妻のミッシェルは、ホワイトハウスの野菜畑でミッシェルが育てた野菜を使って、このことを娘たちに徐々に教え込もうとしています。これは、地域の学校と協力して、学校給食プログラムの中でも教えられるべきことです。

疾病治療だけでなく、むしろ予防を促進させるような医療制度の構築には、我々一人ひとりが役割を果たすことが必要です。医師は我々に、避けるべき危険要因は何か、どのような予防手段をとるべきかを知らせる必要があります。また経営者は、自分の健康に気をつけて会社の医療費も削減している従業員を報奨する、セーフウェイ（アメリカのスーパーチェーン）のような手本に従う必要があります。セーフウェイの従業員の4分の3は、この「健康対策（Healthy Measures）」プログラムに参加しており、高コレステロールや高血圧の問題がないかどうか、スクリーニングを受けることができます。この結果が良ければ、保険料の支払いが少なくて済むのです。このプログラムにより、セーフウェイ社は医療費支出を13%削減し、従業員も保険料の自己負担を20%も減らすことができたのです。我々は、経営者がこのようなプログラムを採用し広めていくことをさらに支援していくつもりです。

連邦政府はまた、健康的な生活のための目標を増進するために、今まで以上に努力しなければなりません。もっとも費用のかかる5大疾病—ガン、心疾患、糖尿病、肺疾患、そして脳卒中—は、予防可能です。それにもかかわらず、現在、予防や公衆衛生には、ほんの一部の医療費しか支出されていません。体の健康だけでなく、経済の健全性をも脅かすような病気を回避するために、予防医療や健康プログラムへの投資を行うことで、それは変わり始めています。

電子カルテや予防医療も重要ですが、これらはほんの予備的段階にすぎません。これだけでは、この国の上昇し続ける医療費を少しばかり減少させる程度です。

これだけ医療費がかかる理由は高齢化にあると言う人もいますが、そんな単純な理由ではありません。年齢層が関係しているのは確かです。高齢者と病人の多い社会は、若く健康な社会に比べ、

たしかに医療費がかかります。しかしこの巨額な医療費の原因は、医療制度そのものにあるのです。人を少しも健康にしないことにばかり多額の金を費やす制度、より高額な医療はすなわち良い医療だとみなす制度です。

例えば最近、ニューヨーカー誌に載っていた記事に、テキサス州のマッカレン郡における医療費の支出がエルパソ郡の2倍に上る理由は、マッカレン郡に病人が多いとか、質の高い医療を受けているからではなく、単に不要な治療を多く受けているからだと書いてありました。不要な治療は、場合によっては、感染症や医療ミスリスクを引き起こし、実際に害になりうるのです。そして問題は、このようなことがアメリカ中で繰り返されているということです。ダートマス大学のある研究によれば、医療費を多く支払っている地域のほうが、少ない地域に比べて、心臓発作やその他の病気で死ぬ人が多い傾向にあると報告されています。

これには2つの主な理由があげられます。ひとつは、より多くの検査やサービスを提供すれば、支払われる金額も増える、というインセンティブ制度です。ここにいらっしゃる多くの皆さんは、私の言っている意味がおわかりだと思います。これは医療の質よりも医療の量に報奨を与える仕組みで、これがあなた方医師に、患者一人ひとりに多くの時間を割くことができなくても、次々と多くの診察をさせています。そして、本当に必要ではないときにでも、余分なMRIやEKGの検査をするインセンティブを与えているのです。これが、医療という仕事を天職としての専門職から、「ビジネス」と呼ばれるようなものにしてしまうモデルなのです。

そんなことのために皆さんは医師になったわけではありません。そんなことのために多くの時間を解剖教室や手術室で過ごしたわけではありません。そんなことのために患者のベッドの傍らにつきそい、容体を見守り、大丈夫ですよと声をかけているのではないでしょう。あなたが医師という職業を選んだのは、会計係や事務員をするためではありません。専門職としての治療者となるためであり、そして我々の医療制度でなら、そうなれるのです。

まずは、医師や病院に対する支払い方法の改革が必要です。支払いをとりまとめ、糖尿病のような慢性状態にある患者に行った治療の回数に対してあなた方医師に支払うのではなく、その病気に行った治療方法全体に対して一括で支払うという方法をとる必要があります。我々は医師が協力するためのインセンティブを作り出さなければなりません。なぜならこの制度になると、病状の軽い患者を優遇しがちだからです。ですから、治療の成果が上がればそれに対してボーナスを支払うといった仕組みも必要です。そうすれば治療の量より質が優先されることになります。

また我々は、医学教育にかかる費用についても再考し、プライマリーケアの道を選択したり、利益を上げるよりも無医地区で働くことを選択した医学生を優遇する必要があります。この理由から我々は、国立医療サービス機構(National Health Service Corps)に多額の投資をして、プライマリーケア担当の医師や看護師が安価で医学研修を受けられるようにしています。彼らが医療従事者となった時に、研修で生じた借金の返済に追われなくて済むようにしてあげたいのです。

次に必要な構造改革は、医師と患者に向けた医学情報の質を高めることです。わが国には世界でも最高の医学部や第一級の研究所があり、そして世界でも最高水準の教育研修を提供しています。しかし我々は、その結集された知識や経験をより良い医療に生かすという点では、まだ十分とは言えません。どんな治療がもっとも効果的なのかを検証するために医療費から支出される金額は、全体の1%にも満たないのです。有効な情報が雑誌などに掲載されたとしても、それが検査室や手術台の上に登場するまでには17年もかかる、というわけです。

その結果、医師と患者が、最新の研究成果の恩恵を受けずに決定を下しているという例があまりに多すぎます。例えば最近の研究で分かったことですが、心臓疾患のガイドラインで科学的根拠に基づいたものは半分しかないのです。ということは、ステントを挿入すれば同じ効果が得られるのにわざわざバイパス手術を施したり、または投薬の調整と医学的管理が同等に有効な患者にステントを挿入したり、というケースが起こり得るということです。そしてこのことによって、患者の健康状態が改善しないまま費用だけが高くなるということになるのです。

そこで我々がしなければならないことは、何が効果的な治療かを見つけ出し、それを皆さんの診療で速やかに実践するよう勧めることです。我々が多額の投資をして、様々な疾患や病状にとって最適な治療は何かを決定するための研究をおこなっている理由はそこにあります。

ここではっきりさせておきたいのは、効果的な治療は何かを見極めることは、どのような具体的な治療を提供すべきかを決定することではないということです。その目的は、患者と医師が最善の医学的決断を下すために必要な情報を提供するということです。

医療で何が効果的かをよくわかっていたとしても、それを最大限に生かしていないことが多いものです。そのため、シンシナティ小児病院のような、傑出した医療の先例をつくる必要があります。この病院では、患者の親からの提案を取り入れたことで、嚢胞性線維症の治療の質が飛躍的に向上しました。また、テラハッシー記念病院では、患者の状態を監視する緊急対応チームと、医師から薬剤師まで多種の専門職で行う回診によって、死亡する患者が激減したそうです。さらにペンシルバニア州のゲイジנגー病院やソルトレイクシティのインターマウンテン病院では、平均以下の費用で質の高い医療が提供されています。これらはどれも、我々の医療制度において基準となるべき素晴らしい実例です。

最善の治療を再現する。素晴らしい例の実行を推奨する。費用の格差をなくす。これらの目的を達成できない法案が私のもとに提出されても、改革という名を与えるわけにはいきません。しかし、私が法案に署名するだけでも不十分なのです。私には、医師である皆さんの助けが必要なのです。ほとんどのアメリカ国民にとって、皆さんは医療制度そのものです。私を含めアメリカ国民は、まさに皆さんが勧めることをするのです。だからこそ私は皆さんの意見を聞き、皆さんと協力して、皆さんに役立つ改革を実行したいのです。そして我々が手を取り合って一步一步進んで行けば、患者にも医師にも役立つ医療を実現しながら支出を削減し、質を高め、何千億ドルの医療費を節約できるのです。

しかし、私の認識では、医師たちがいつも訴訟という恐怖を感じているとしたら、こうした改革は困難だろうということです。中には法的な攻撃を受けないために、過度の検査や治療を支持する必要を感じている医師もいるでしょう。これは現実の問題です。私は別に、誤って事故にあった人々にとって不公平な医療過誤の裁定額に上限を設ける意見を擁護するわけではありません。しかし、医師が患者の安全を最優先しながら治療に集中できるようにし、同時に根拠に基づいたガイドラインをもっと広く利用することを推進していく必要があると考えます。そうすれば、良質の医療よりも治療の多さに重きを置く過度に防御的な現在の医療を縮小させることができると思うのです。

これらはどれも、他の改革と手を取り合って進めていく必要があります。わが国の医療制度は非常に複雑であり、そして医学は常に進歩していきますから、我々も、無駄をなくし、コストを減らし、そして質を高めるにはどうすればよいのか、その方法を常に評価していく必要があります。私が、共和党連邦議会によって設立された医療保障支払い諮問委員会 (Medicare Payment Advisory Commission) (メンバーには多くの医師も含まれています) の役割を広げることに前向きであるのはそのためです。近年この委員会は、ざっと 2,000 億ドルの節約を提案しましたが、立法化には至りませんでした。この提案は現在やっと、我々の幅広い改革案に組み込まれましたが、医療制度で何が役に立ち何がそうでないかについての情報量が増えるにつれ、これからはもっと迅速に対処して、何十億ドルもの節約の機会を逃さないようにする必要があります。

医療費を抑えるとはいっても、我々はすべてのアメリカ国民が必要な補償を確実に受けられるようにしなければなりません。その理由のひとつは、それがひいては経済利益につながるからです。保険に未加入の 1 人のアメリカ人が、医療費支払いの手段を持たずに救急治療室に足を踏み入れるたびごとに、その費用はすべてのアメリカ国民の家族に回され、その費用は約 1,000 ドルとなり、それが増税や、高額な保険料、そして高額な医療費に反映されていきます。この、いわば隠れ税金は、すべてのアメリカ国民が保険に加入することで削減できます。すべての若く健康なアメリカ国民が保険に加入すれば、保険会社にとってはリスクが拡散し、さらにすべての人にとってのコスト減となるでしょう。

しかしこの経済論議と並行して、もっと強い論理があります。それはこうです。わが国は、保険に加入できない男女や子供が 4,600 万人もいるのを容認するような国ではありません。わが国は、一生懸命働く家族が、しかるべき補償を受けられないでいるのを放っておくような、または補償を必要としている人々に背を向けるような国ではないのです。わが国は国民を大切にする国です。我々はお互いに助け合う国民です。それがこのアメリカ合衆国なのです。

そこでアメリカ国民一人一人に、手ごろな価格の健康保険を提供するためには、いくつかしなければならぬことがあります。まず、現在の医療制度の良い点を保護することです。繰り返して言いますが、あなたが今の医療を気に入っているなら、改革によって変わるのは費用が安くなることだけです。そうでないと言う人がいたら、その人たちはあなたを欺こうとしているか、または事実を把握していないのです。

あなたが今の医療保険に満足していないか、または加入していないなら、医療保険エクステンジ（Health Insurance Exchange）と呼ばれている制度に参加することができます。この制度はいわば、医療保険プランのワンストップ・ショップのようなもので、受けられる給付内容と価格を比較検討して、あなたとあなたの家族にとって一番良いプランを選ぶことができます。郵便局員から国会議員にいたる連邦職員の保険制度と同じようなものです。選択肢としてたくさんのプランがあり、参加企業がそれぞれ少しずつ内容の違う保険商品を提供しますが、どのプランも手ごろな値段で基本的な内容です。そして、これらのオプションのうちの一つは公的なものにする必要があります。それは人々に、より広い選択範囲を提供し、医療市場の競争を促進し、システムの無駄を排除して民間の保険会社に不正をさせないためです。

公的なオプションについては、懸念する声もあることを知っています。特に現在のメディケアの料金が広く適用されて、コスト削減ができないのではないかという懸念は、理解できます。それはもっともな心配ですが、克服できると思います。さきほども言いましたが、我々が提案する改革は、最良の治療を提供し、患者のケアに集中できるようにすることが目的であって、今日のような細切れの補償を提供することではないのです。我々が求めるのは、より一層の安定性であり、健全な財政の基盤に立った医療制度です。そしてこれらの改革は、公的なオプションがどうなるかにかかわらず実行される必要があります。これまでは、政策と毎年の連邦予算に基づく「持続可能な成長率」の数式にのっとって毎年交渉が行われ、ようやく決定された金額が支払われていました。しかし、これからは、治療の成果に応じた金額が支払われることとなります。そうでなければ医療費は持続不可能なほどに膨れ上がり、皆さん方の収入と我々の医療システムの安定を脅かすことになるのです。

また、公的なオプションは、政府が医療費を全額負担する支払いシステム（単一支払いシステム single-payer system）のトロイの木馬ではないかという、筋違いの懸念もあるようです。正直に言いましょ。単一支払システムが機能している国々はたくさんあります。しかし私は、これについては同じ政党のメンバーからも激しい批判をあびてきましたが、ここアメリカでの伝統の上にシステムを築き上げていくことが大事だと私は考えます。ですから、私が政府経営による医療を行おうとしているなどと非難する人がいたら、これは知っておいてほしいのですが、彼らは真実を語っていません。

私が取り組もうとしていることは、公的なオプションの設定に役立つでしょうが、医療を何百万人のアメリカ国民にとって手に届くものにするということです。そして誰もが前述のエクステンジの制度によって医療費を支払えるようにするためには、支援を必要としている家族に対して、確実に支援していく必要があります。そうすれば、誰かが保険に加入できない理由などなくなるとはなりません。

実際、まだ経済的に余裕のない困窮した人々に免除を与えるという条件はつけますが、すべてのアメリカ国民が健康保険に加入する責任を担うようなシステムに私が積極的なのは、人々が保険

に加入することを可能にする自信があるからです。雇用者にも同じことが言えます。私はどんな企業も従業員に対して健康保険を提供する責任があると思っていますが、そんな余裕のない中小企業は免除を受けられるようにします。その場合には、中小企業の従業員とその家族は、エクステンションの制度によって保険をカバーしてもらうことができるでしょう。

保険会社は、未加入者をカバーするという考え方を支持してくれています。保険会社が改革のための議論に建設的な姿勢で参加しようとする気持ちを私は歓迎します。しかしまた、保険会社がアメリカ国民から小銭を集めてより多くの顧客を集めることのできるシステムを作るだけ作ったものの、依然としてその責任を果たさないというようなものは受け入れられません。そのためにも既存の健康状態を理由に補償を拒否するというような今までの慣行は終わらせる必要があります。誰を補償して誰を拒否するか、サクランボ狩りのようなえり好みをする時代はもう終わったのです。

個人的なことですが、私の母が、末期がんと戦いながら、保険会社が自分の病気について、既往症であることを盾に補償をしてくれないのではないかと、最後まで心配していた姿を忘れることができません。我々ができる最小限のことは既往症に関する現在の対応を変えることです。そしてこれは私の母と同様この慣行に苦しんだすべての母親、父親、息子、娘たちのためなのです。これによって医療は、何百万人のアメリカ国民の手に届くものとなるでしょう。

さて、すべてのアメリカ国民に手の届く補償を提供するための経済的、道徳的理由を受け入れたとしても、少なくとも短期的にはそのためのコストがかかることは否定できません。しかしそれは、繰り返しますが、赤字に上乗せされるコストではありません。医療改革は次の10年間で医療財源の中立化をはかれるべきですし、またそうなるでしょう。

金額が見合わないと言う声もすでにあります。それは間違いです。すべての国民が安く医療を受けられるようにするためには、これから10年にわたって1兆ドル以上の規模の費用がかかります。たしかにすごい額に聞こえますし、その通りです。しかし思い出してください。この額は、我々がイラク戦争に費やした額よりも少ないのです。それに忘れないでください、真の意味で費用の増大を抑えるような改革ができなかったら、この不況と低賃金の中で、逆に何兆ドルものコストがかかることになるのです。

費用をどうやってカバーするかを説明します。まず、2-3ヶ月前に通過した予算の一部から、10年間にわたって6,350億ドルを医療準備基金（Health Reserve Fund）に預けました。その内の半分の3,000億ドル以上は、もっとも富裕なアメリカ人の税控除をレーガン大統領の時代と同じレベルにまで制限するなどして得た歳入から繰り入れたものです。これによって慈善事業への寄付が大幅に減少するだろうと懸念する人もいますが、統計によればそれは誤りです。それに慈善事業のためにいちばん良いこととは、医療改革の上に築き上げられたより強い経済なのです。

しかし歳入を引き上げるだけでは不十分です。我々はまた、メディケアにおける非効率的な部分

を検討して、その支出を削減しなければなりません。どの部分を削減するかについては、激しい議論が行われるでしょうが、私はそのような議論は大歓迎です。どこを削減するかについてはこう考えます。まずメディケア・アドバンテージへの過度な支払いをやめるべきです。現在我々は、従来のメディケア・サービスに支払っていた金額よりもずっと多額な金をメディケア・アドバンテージに支払っています。これは保険会社にとっては良い契約ですが、アメリカ国民にはそうではありません。そのため我々は、民間保険会社がメディケアに補償をするというメディケア・アドバンテージのプログラムに対して、競争入札を取り入れるのがよいと思います。それで今後10年間で1,770億ドルの節約になります。

2つ目に、メディケアの補償を、回避可能な再入院を減らすために使う必要があります。現在、退院したメディケアの患者のうちのほぼ20%が、必要な幅広い治療を十分に受けられていないという理由で、1ヶ月以内に再入院しています。これがコストを跳ね上げ、人々を危険にさらすこととなります。メディケアが病院に補償する方法を変えることによって、病院だけが利益を上げて、他の人々のコストが跳ね上がるのを防ぐことができます。これによってこれからの10年間で250億ドルの節約になります。

3つ目に、ジェネリックの生物学的製剤を市場に導入する必要があります。これは貧血のような病気の治療に使われる薬です。しかし現在、これらの薬に代わるジェネリック薬品がFDA(食品医薬品局)で承認される道が開かれていません。この道を開くことによって、さらに何十億ドルもの節約になります。また、富裕な高齢者に薬代を少し多く払ってもらい、そのぶん貧しい高齢者が薬を安く買えるようにすれば、ざっと見積もっても、さらに300億ドルの節約ができます。

医療準備基金の中身はこのようなものです。私はまた、メディケアとメディケイドの支出を3,130億ドル節約するための方法をいくつか提案しています。そのひとつは、メディケアの支払い調整によって、新たな価格と生産性が経済に反映されるようにすることです。現在メディケアの支払い額は毎年必要以上に増えています。これを調整することにより、医療提供者がより効果的な医療を提供するためのインセンティブを創出し、その過程でざっと1,090億ドルを節減できるのです。

もうひとつの方法は、保険に未加入の患者を治療したことに対する病院への支払いを減らすことです。膨大な人数の未加入患者を治療しているために、病院はメディケアの支払いに頼っているのが現状です。しかし改革によって未加入患者が減少すれば、必然的に支払い額も減少します。メディケアへの支払いが減って保険加入者が徐々に増えてくれば、1,060億ドルの節約につながります。もちろん病院には必要なだけの差額を確実に支払います。

また、処方薬の購入方法をより効率化することにより、約750億ドルを節約できます。また、医療制度全般にわたって無駄や不正、詐欺を根絶することによって、さらに約10億ドルを節約できるだけでなく、受けたサービスに見合わないあるいは受けてもいないサービスに対する医療費を支払わなくても済むようになるのです。

ここではっきりしておきたいのですが、もちろん私はこのような節約を、高齢者を保護する立場で取り組むつもりです。事実、これらの改革案によって、メディケア信託基金(Medicare Trust Fund)の存続を7年引き伸ばし、またメディケアの受給者の保険料を10年間で約430億ドル減らすことができます。私はこの実現に向け、全米退職者協会と協力して進めています。

これらの節減によって、改革から生まれるはずの長期的な節約分を別にしても、我々はおよそ9,500億ドルをテーブルの上に置くこととなります。これは医療改革のためにかかる費用をすべてカバーできるだけの金額です。医療改革を、本当に責任をもって完全に実現するために、数週間か数ヶ月後に、現実的に説明のつく道筋で医療制度改革が十分に意味をもつように議会と協力して考え方の違いを修正する作業をすすめる予定で、私はそれを楽しみにしています。付け加えますが、改革によって生まれるはずの長期的な節約分は、このための勘定には入れておりません。この改革によってこれからの10年間で医療財源は中立化し、また医療費の増大率を何十年にもわたって減速させることができるので、我々は、より速い経済成長、より高い生活水準、そして予算赤字の減少を期待することができるのです。

そんなことが果たしてできるのか、と冷淡な言い方をする人もいるでしょう。また改革の進め方についても意見の不一致があるでしょう。しかし我々はこの機会を逃してはならないのです。

先日、私の友人のアール・ブルームナウワー議員が「アメリカ医療の危機」というタイトルの、雑誌の特集記事を見せてくれました。その中で「急増する負担額」という言葉が出てきました。また「サービスの利用量」についての警告も載っていました。また「医療費の支払いに（出来高払いよりも）良い方法を見つけることができるか？」という問いかけもありました。この記事では、今日我々が直面しているさまざまな困難について言及しています。本当のところ、この特集記事はなんと、1960年10月に発行されたハーパース・マガジンに載っていたものなのです。

AMAのメンバーの皆さん、私が今日ここに立っているのは、我々の子供たち、そしてそのまた子供たちが、50年後にまだアメリカ医療の危機について語っていてほしくないからです。我々が解決しなかった高騰する費用、すなわち我々が治さなかった社会的問題で、彼らがまだ苦しんでいてほしくないからです。我々が削減できなかった膨大な赤字を背負い、我々が再建できなかった経済の負担を抱えてほしくないからです。

家族が、びくびくしないで医者からの請求書の入った封筒を開けることができる、親が子供たちを定期健診に連れて行き自分も病気の予防のために検査を受けることができる、親は子供に健康的な食べ物を食べさせ子供はもっと運動する、また患者たちは医者に時間をかけて診察してもらうことができ、医者はコンピュータから彼らのニーズに見合った医学情報や最新の研究結果を即時に引き出すことができる、整形外科医と腎臓専門医とガン専門医が協力してひとりの患者の治療にあたることができる。こうして、アメリカの医療制度について最も優れている点があるままアメリカの医療制度の品質保証になるのです。私は、子供たちには、どんな人のためにもなる、

このような医療制度の恩恵を受けてもらいと願っているのです。

これが、我々が築くことのできる医療制度なのです。これは手に届くところにある未来です。そして我々が一致団結してこの未来を実現することができたら、アメリカ国民を健康にし、アメリカの経済力のくびきを解き放つだけでなく、皆さんをこの崇高な職業に導いた理想の価値を再認識することができ、すべてのアメリカ国民を癒すための医療制度を作り上げることができるでしょう。

ありがとうございました。